

# 文学で近代における論理を探究する概念型カリキュラム －コンピテンシー育成のための複数テキストの効果的な組み合わせとループリックの活用－

【キーワード 文学，複数テキスト，論理，ループリック，自己評価，自己調整，AI】

## 背景

★高校国語は教材（コンテンツ）依存の傾向が強い。★特に文学を扱う科目では、何の作品を教えるかという点が全面に出る傾向がある。

## ①概要

高校2年生を対象とした文学国語において、**複数のテキスト**を横断しながら**近代**という時代の思想や**論理**を**多面的な視点**から理解をする実践を年間通して取り組んだ。生徒が**自ら問いをたてる**などの**探究的**な場面を計画的に設け、感性・情緒・感想等を手がかりとしながら、文学を論理的に読み、文学における論理について協働的に理解を深める**概念型カリキュラム**の実践を行った。その結果、主体性**コンループリック**を活用した生徒の自己評価や相互評価から生徒の変容や肯定的回答を多数確認できた。

複数のテキストを効果的に組み合わせることで「**コンピテンシー**」を育成し、「**コンテンツ**」の特性を最大限に生かし、「**コンテンツ**」同士の**相乗効果**を最大限に生み出す工夫を紹介したうえで、**AI**の出現など変化が激しい社会において今後、新しい国語科に求められることについて考察した。

## ②実践事例

### 概念レンズ

### ★近代

### ★イデオロギー

#### I 五感を生かして小説を読解し、比較する

【複数テキストの観点】 小説・梶井基次郎『檸檬』  
×詩・高村光太郎『レモン哀歌』×評論・加藤周一『文学の概念』

##### (1) 題名の分析

①表記：なぜ漢字か。②必然性：なぜ檸檬なのか。  
→疑問をもたせる。全体の枠を意識させる。後の活動につなげる。

##### (2) オノマトペの分析

①どのような状態を表すか。  
a 辞書的な意味 b 本文の文脈  
②どのような変化があるか。  
→主人公の心情・状況と対応させて考える。質の変化・量の変化などの型を意識させる。

##### (3) 場面設定・事実の把握

①何が書かれているか。  
時（時代・時間など）、場所（地域など）、人物、年齢・属性・職業、経済状況、健康状態、心情、関係  
②設定を「近代」という視点で捉え直す。  
→時系列に変化をとらえるために、設定を丁寧に整理し、事実から読み取ることができることを分析させる。

##### (4) 対比・抽象・具体の視点で分析

①「その頃」すなわち「すでに生活が蝕まれていた頃」と「以前」の対比と変化。  
②具体的に列挙されているものを抽象化。  
→グループワークの活動用達成度が分かるようにループリックを用意（下記）。

1 自身の感覚	2 檸檬「私」	3 レモン哀歌
① 自身の感覚を表現している。② 自身の感覚を表現している。③ 自身の感覚を表現している。④ 自身の感覚を表現している。	① 自身の感覚を表現している。② 自身の感覚を表現している。③ 自身の感覚を表現している。④ 自身の感覚を表現している。	① 自身の感覚を表現している。② 自身の感覚を表現している。③ 自身の感覚を表現している。④ 自身の感覚を表現している。

##### (5) 比喩と象徴の説明・時代背景分析

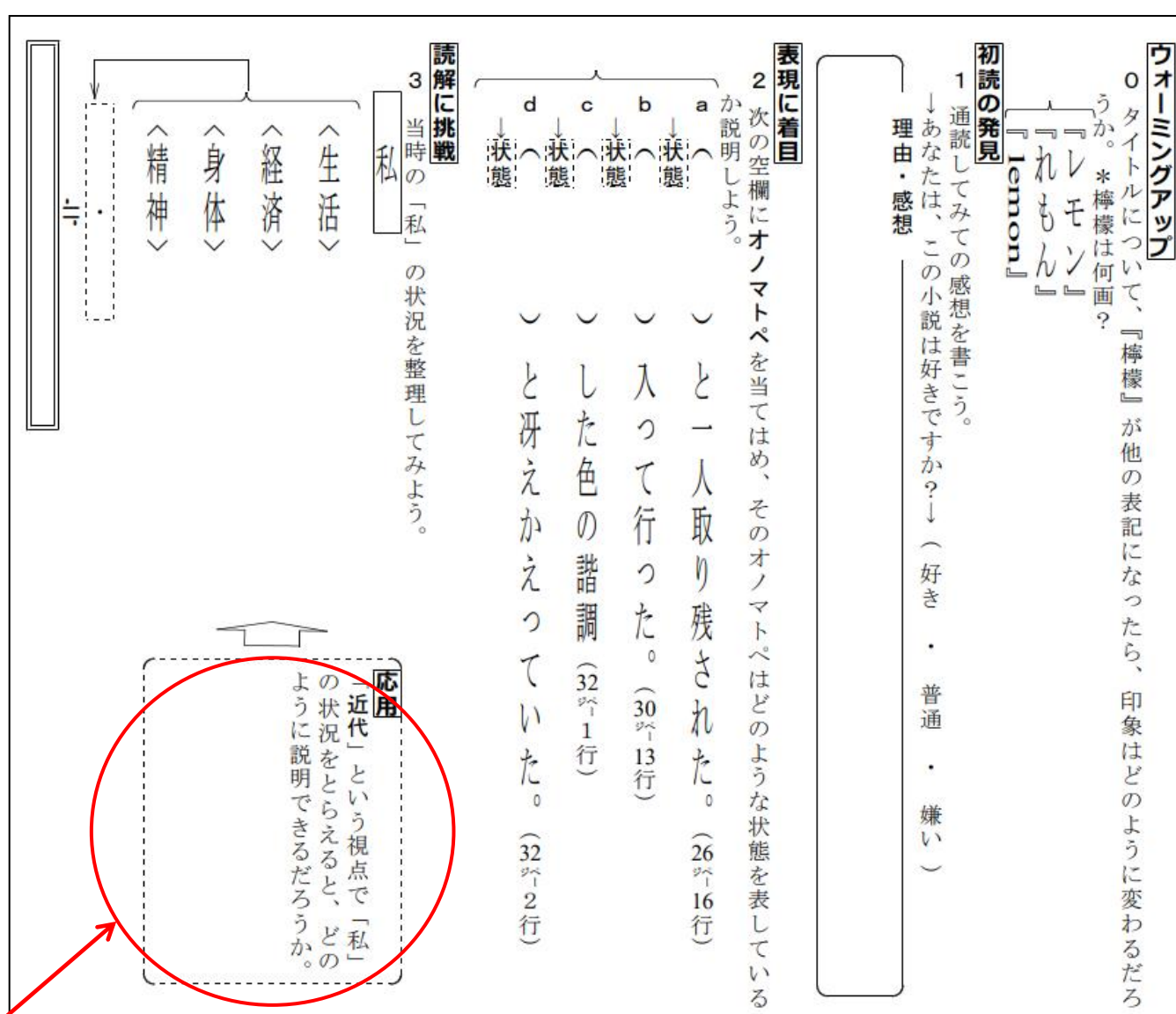
①比喩（直喩・隠喩）と象徴の違いを本文や具体例を通して理解。  
②本文の背景について、歴史総合（日本史）と関連させて深化。  
→教科を横断したカリキュラムマネジメントの観点を取り入れる。  
設問要求を正確に捉えさせ、「分かりやすく説明」する問いと「簡潔に説明」する問いをバランス良く取り入れる。

##### (6) 五感を生かし、複数テキストで深める

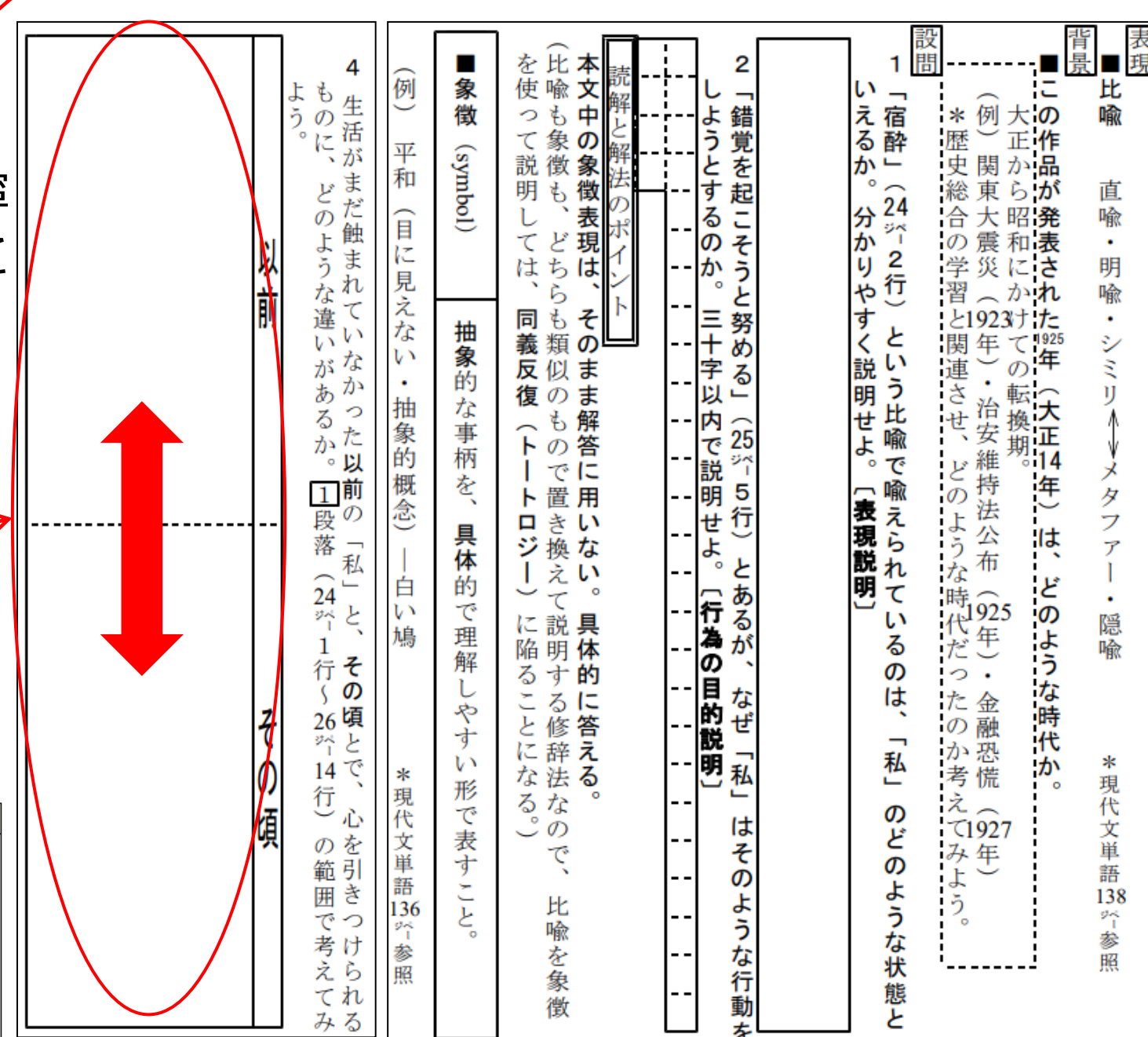
①実物のレモン：五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）で、それぞれ感じた情報をワークシートへ書き込んでいく。  
②梶井基次郎『檸檬』：本文に戻り、主人公がどの感覚が一番影響を与えたのか、**心の安定**につながったのかを考えていく。  
③高村光太郎『レモン哀歌』：身体的な病、すなわち結核・肺せん腔と精神的な病との共通点に着目し、文学のなかのレモンを考察する。  
④加藤周一『文学の概念』：レモン体験が「文学的な経験」と「科学的な経験」が**対比構造**を用いて明確に説明されている部分を抜き出していく。この評論文を読むことで、梶井基次郎の檸檬体験が「分類不可能な、一回限りの具体的な経験」であり、「具体的で特殊な一回限りの経験」で、科学や論理が重視される近代・現代社会で文学に価値があるのか考えるきっかけにもなる。

##### (7) 創作活動 枠組みを与え、リライトをする。

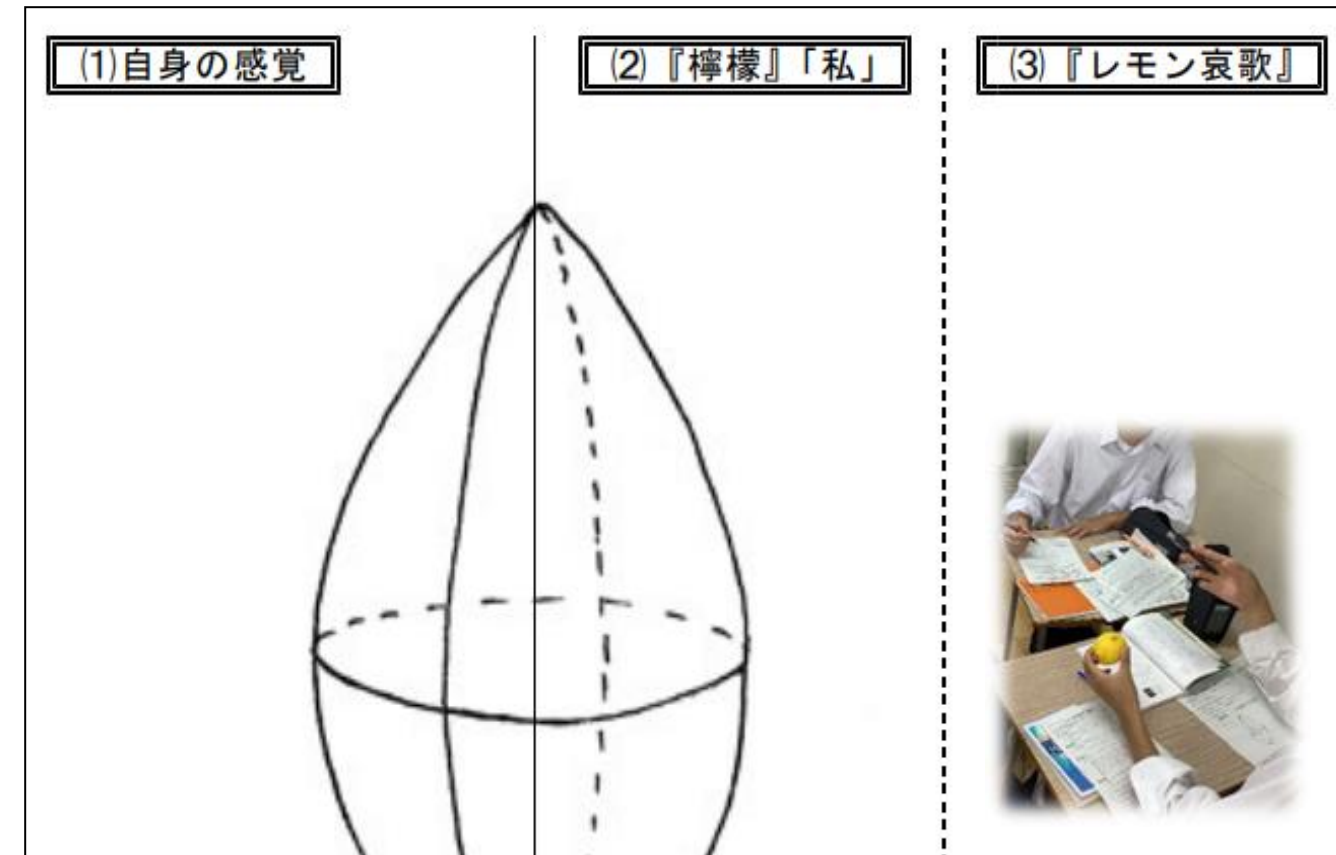
なぜ檸檬なのか考えるきっかけを作る。



【図1】ワークシート (1)・(2)・(3)



【図2】ワークシート (4) 【図4】ワークシート (5)



【図3】ループ (4)

##### (1) 自身の感覚

##### (2) 檸檬「私」

##### (3) レモン哀歌

##### (4) ②～③の違い・共通点を整理して分析してみよう。

小説や詩に描かれる「檸檬」「レモン」とは、どのような存在なのか。→

【学習目標】『檸檬』の全体像をおさえ、さまざまなテキストと比較し、多角的な視座を活かした独創性のある創作をおこない、表現力を養う。

作品のタイトルが『檸檬』以外のものだったら、この小説はどのようなものになるか。果物屋・八百屋で売られているであろうものからひとつ選び、『檸檬』にかかわる描写を書き換えてみよう。ただし、主人公の設定は変えてはならない。そのものによって、『檸檬』状態が「非常に幸福」に変わるという体験は変えてはならない。

(例)「その檸檬の冷たさはたえようもなくよかった。」(P29・8行)  
→変更後「その**緑の網目模様の手触り**はたえようもなくよかった。」

構想 (条件のチェックリスト)  
(1) 選んだもの ※果物屋・八百屋で売られているであろうもの  
(2) 選んだ理由 ※「幸福」⇒(しくり)⇒「非常に幸福」の特

(3) 書き換えを行う箇所 本文の表現 (ページ・行) ⇒ 変更後

【図5】ワークシート (6)

【図6】ワークシート (7)

#### II 作者の問題意識・寓意を読み取り、「近代」という時代を考える

【複数テキストの観点】 小説・安部公房『梲』×小説・安部公房『棒』

##### (1) 単元のキーワード

寓話 問題意識 人間疎外 自由 変身譚

##### (2) 単元のキーポイント

①近代のどの部分を切り取って、虚構世界が構築されているか考える。  
②近代という時代が、どのように表現されているか考える。  
③作者の問題意識、作品のテーマを論理的に読み取り、表現する。

##### (3) 発表課題

事実を確認する問い + ★概念を理解するための問い ★探究を促すための問い

①安部公房は『梲』・『棒』にどのような問題意識を込めたのか、そして、君たちはどのように読み取ったのか。理由とともにそれぞれ説明してみよう。  
②安部公房『梲』（『棒』でも良い）から問いをひとつとって、それに対する解答を作成してみよう。また、解答の根拠を本文から示すこと。  
③「近代」という時代は、どのような時代か。今まで読み取った小説から、自分のことばで説明してみよう。

探究の視点を取り入れた **思考力・判断力・表現力**を育成へむけての **定期考査**の工夫

##### (1) 小説・梶井基次郎『檸檬』←小説・藤本義一『蛍の死 わが織田作4』を出題

肺結核に病み執筆に励む織田作之助が、言論弾圧によって発売禁止処分をうけたが、歴史小説に活路を見だして、陶磁器に触れることで心の安定をはかる場面を抜粋した。→**社会不安・時代背景**や**結核、心の安定**の共通点があり、**小説の型や構造**を捉えさせる。

##### (2) 小説・安部公房『棒』←小説・安部公房『赤い繭』を出題

休むための家の喪失という状況の「おれ」は、自分の家を探す過程で、当たり前とされている秩序や常識の壁に行く手を遮られる。→『山月記』以外の**変身譚**に触れ、さまざまな**修辞や寓意**、共通する**不条理性**などに気づかせる。

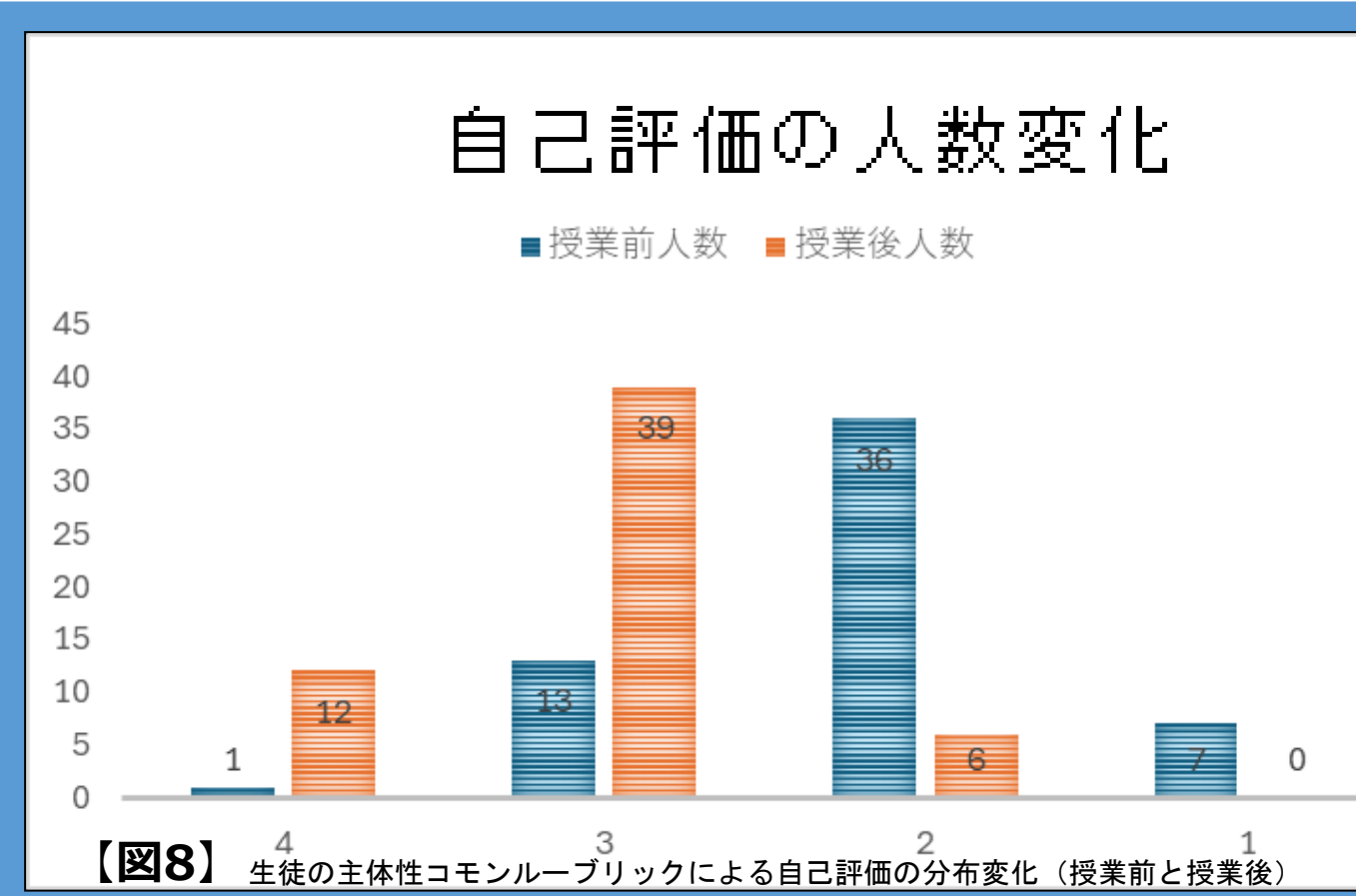
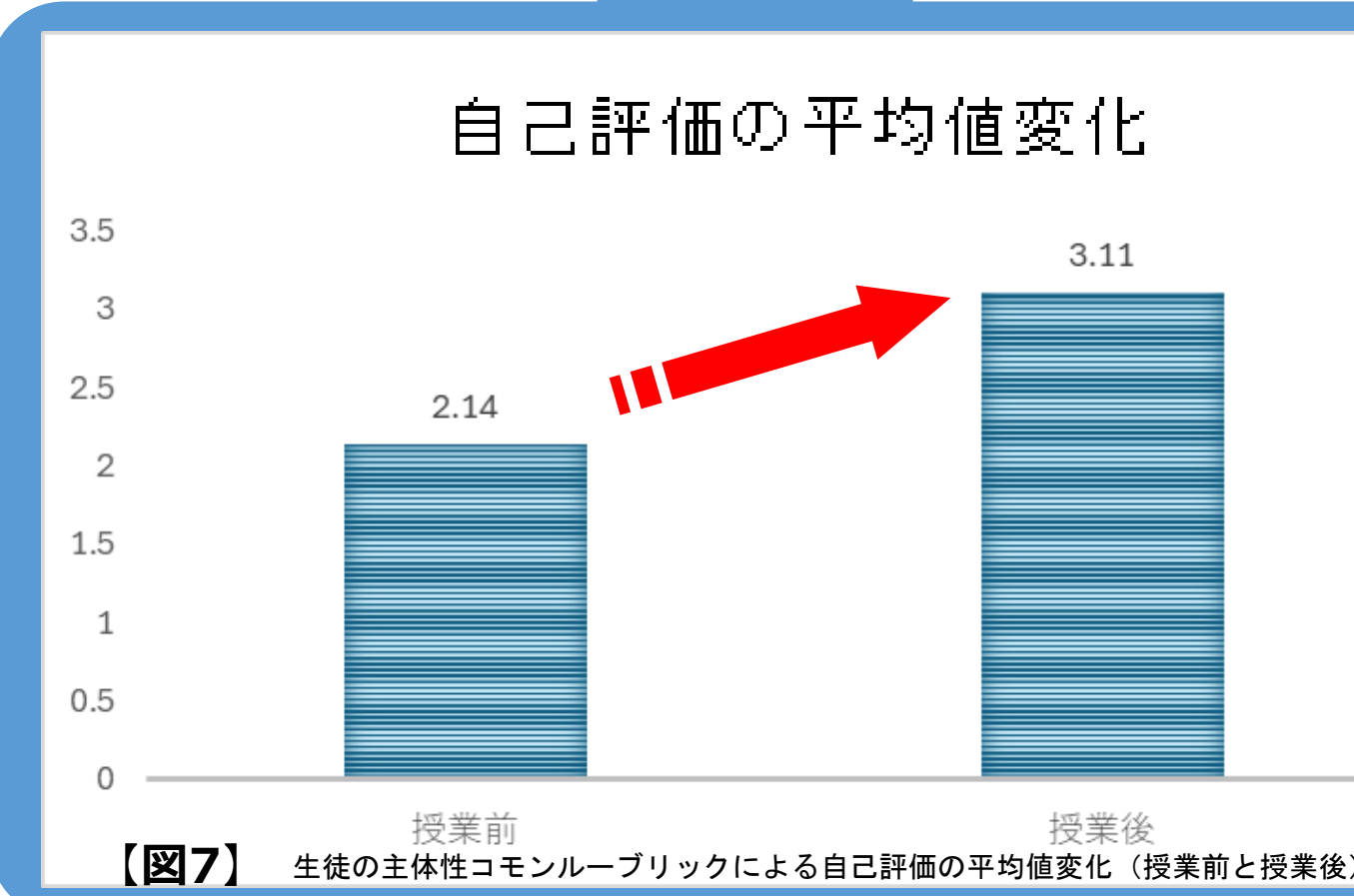
主体性**コンループリック**の活用～自己評価・自己調整の場の設定～

#### I の活用場面 自己評価

生徒の実態と目標に即したループリック
4 異なる意見をもった他者の意見に耳を傾け、自分の意見や感情を伝え、他者の意見を受け入れて、自分の意見や感情を伝えることができる。
3 異なる意見をもった他者の意見に耳を傾け、自分の意見や感情を伝え、他者の意見を受け入れて、自分の意見や感情を伝えることができる。
2 身近な人とかかわるなかで、自分の意見や感情を伝え、他者の意見を受け入れて、自分の意見や感情を伝えることができる。
1 身近な人に自分の意見を伝えたり、身近な人の感情を聞いたりすることができる。

#### II の活用場面 相互評価

生徒の実態と目標に即したループリック
4 異なる意見や感情をもった他者について、背景・根拠を積極的に理解し、共感的に受け入れて自分の考え方を発展させ、深めることができる。
3 異なる意見や感情をもった他者について、背景・根拠を積極的に理解し、共感的に受け入れて自分の考え方を発展させ、深めることができる。
2 身近な人とかかわるなかで、自分の意見や感情を伝え、他者の意見を受け入れて、自分の意見や感情を伝えることができる。
1 身近な人に自分の感情を伝えたり、身近な人の感情を聞いたりすることができる。



## ③まとめ

高校国語科では、本文に書かれていることや出題者の意図を正しく読み取ることが重視され、大学入試共通テストや国公立の二次試験においてもその基本路線は踏襲されている。これからの新しい国語科では、「**語られるもの**」と「**語られないもの**」の両面に焦点を当てることが重要であると考えられる。「語られないもの」は、意図ではなく**推論**の手法を用いる。具体的には、**演繹法**や**帰納法**、**修辞技法・レトリック**の考え方が有効といえる。これは、現段階の**AI**には難しく、人間でしかできない思考方法・技術だと考えられる。義務教育ではない高等学校においては、消費者としてただ生きるだけの力ではなく、五感や直感が手がかりとしながら、**ことばの力**によって**新たな価値を創出し、社会構造**をも変えていくことができる革新的な人の育成が求められる。